参考館特別展『太平山神社の歴史遺産―日本史フィールド博物館実習成果展―』

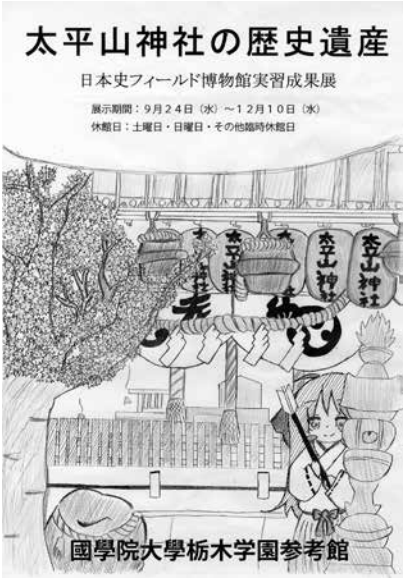
髙垣　美菜子

特別展の概要

國學院大學栃木学園参考館は、平成二十六年九月二十四日から十二月十日まで特別展『太平山神社の歴史遺産―日本史フィールド博物館実習成果展―』を開催した。本学日本文化学科日本史フィールド開講の博物館学芸員課程では、平成二十五年度より一年次の「博物館実習Ⅰ」で歴史資料の取り扱い、「博物館実習Ⅱ」では考古資料の取り扱いを学び、これをふまえて二年次の「博物館実習Ⅲ」で学生の手作りによる特別展の企画と展示を当館を会場に実習している。

本学の立地する太平山内には多くの社寺が所在しており、これらの地域の歴史遺産をテーマとすることとし、平成二十五年度は『太平山麓の歴史遺産―太山寺と連祥院―』と題して展示を行なった。[1]

今年度は、太平山神社を取り上げた。太平山神社には古来より数多くの歴史遺産が存在しており、それら



特別展のポスター

のうち参道から本殿周辺、奥宮までの一般に見学可能なものの中から、実習生が自ら調査したものをパネル展示した。平成二十六年度の「博物館実習Ⅲ」は、小林青樹教授が担当[2]し、受講生は古代史一名、中世史四名、近世史五名、近代史二名、考古学一名、宗教史一名、西洋史一名の十五名からなる。三人一組の班で計五班を編成し、各班で、それぞれテーマを決め、あじさい坂・太平山神社参道・太平山神社境内の三地区を分担し、調査した結果をパネルにして展示した。

「あじさい坂」は、太平山神社へと続く約千段の石段両側に様々なあじさいが咲き誇る。そしてその道中にある弁財天を祀る窟神社や松平定信が書いたとされる鳥居の額について紹介した。「太平山神社参道」では、中腹にある推定樹齢千年以上の御神木や神橋、幕末に水戸天狗党が滞在を示した柱について紹介した。「太平山神社境内」では、本殿以外の様々な社殿のなかから星宮神社、天狗を祀る足尾神社、稲荷社について紹介した。

展示準備の経緯

春セメスター全十五回の講義の中で調査・展示準備を行い、特別展自体は秋セメスターの講義開始に合わせてスタートした。

最初の講義ではガイダンスとして、企画展の流れを説明し、班ごとに調査担当エリアを決めた。二・三回目ではポスター作りを行なった。まず各個人で原案を作り、これを班で一枚にまとめて、投票によってポスターを担当する班を選んだ。四回目は現地に足を運び

展示パネルリスト

	名称	種類
一	あじさい坂	解説・写真
二	窟神社（太平山弁財天）	解説・写真
三	灯籠	解説・写真
四	松平定信の額	解説・写真
五	神橋（二荒山神社）	解説・写真
六	神橋（太平山神社）	解説・写真
七	野州太平山之図	写真
八	御神木	解説・写真
九	水戸天狗党太平山本陣跡	解説・写真
十	随神門	解説・写真
十一	右大臣	解説・写真
十二	左大臣	解説・写真
十三	太平山神社の概要	解説
十四	太平山神社	写真
十五	星宮神社	解説・写真
十六	太平稲荷・蔵稲荷・伏見稲荷	解説・写真
十七	太平山奥宮	解説・写真

調査ポイントなどを確認して、展示の構成を練った。五～七回目は踏査成果をもとに、展示案を構想した。ミニチュアの展示図の作成や、パネル展示のレイアウトなど展示内容を詰めていった。最終的な展示構成は表の通りである。八回目は再び現地に赴き、展示に使う資料の写真を撮影した。九回目からは各班図書館などで資料を調べ、パネルの原稿を作成していった。その後、教員の添削を経て原稿が完成し、写真の選定が終わった班からパネルを作成していった。但し、正規の授業回数だけでは展示完成まで進まなかったので、補講を一日設けて、最終的な展示作業をした。午前中はパネル・キャプションを完成させ、午後からレイアウト案をもとに実際に展示作業に取り掛かった。展示作業は完成したパネルをピンを使って展示していく作業である。最後に各班の解説シートを作成し、展示が完成した。秋セメスターになり最初の斯花アワーの授業で日本史フィールドの一・二年生が展示を見学し、各班の代表者が担当箇所を解説した。

以上が「博物館実習Ⅲ」の内容である。特別展自体は十二月まで開催だが、この間、残念ながら学生の関

わる機会を作れなかった。博物館学芸員を目指す学生のボランティアによる展示解説会などを設け、本学の特色である施設を活用していくことが今後の課題である。

最後に今回の特別展開催にあたりご協力いただいた太平山神社に謝意を申し上げる。

注

（1）小林青樹・髙垣美菜子「特別展　太平山麓の歴史遺産―太山寺と連祥院―」『栃木史学』第二十八号、平成二十六年三月

（2）本稿は、小林の協力を得て髙垣が取りまとめた。

パネル作成

展示作業

平成26年度学芸員課程受講生